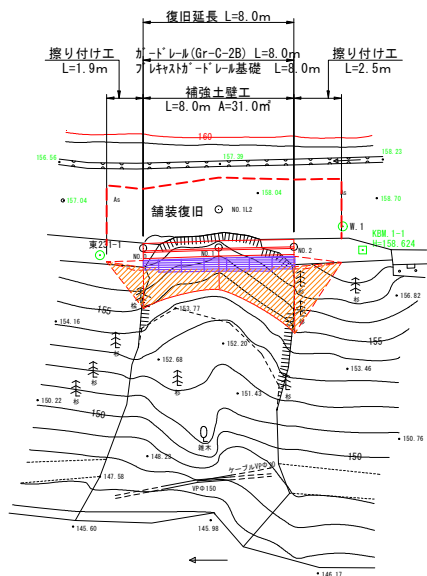


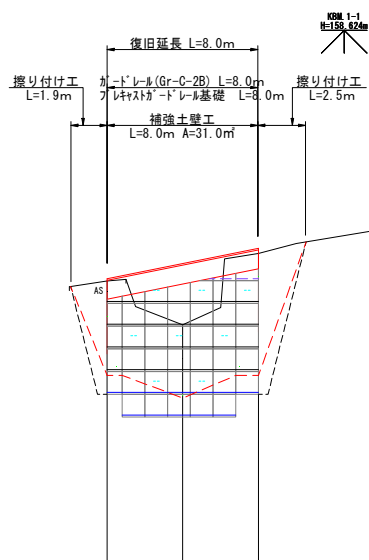
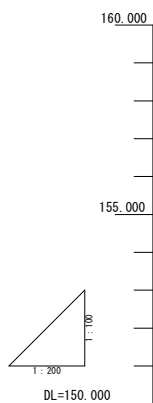
Q

平面図



S=1 : 200

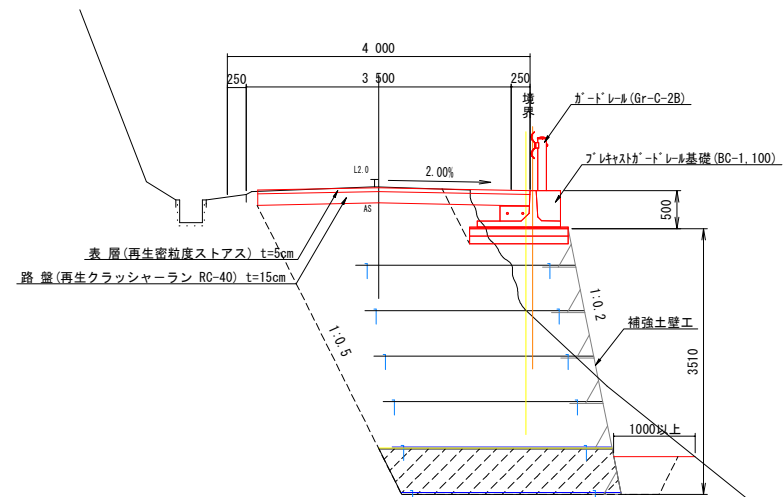
縦断図



測 点	單 距 離	追 加 距 離	地 盤 高	計 画 高	切 土 高	盛 土 高	勾 配
MD.0	0.000	0.000	157.39	157.45		0.06	157.45
MD.1	4.000	4.000	158.23	157.85		1.62	158.25
MD.2	4.000	8.000	158.12	158.25		0.13	158.25

標準断面図

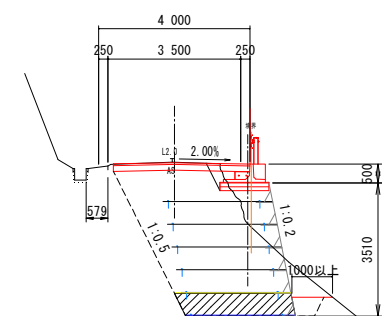
S=1:50



201/33

地区名	福永地区		
図 名	平面図、縦断面図、標準断面図		
位 置	東伯郡琴浦町福永		
縮 尺	図 示	単 位	m
図 号	全 5 葉中の内 1		
令和	年度施行		
琴 浦 町			

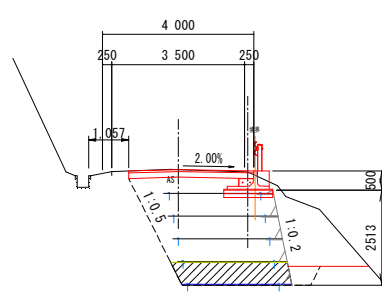
NO. 1
BH=154.23
FH=



ケーブルVPφ20
VPφ150

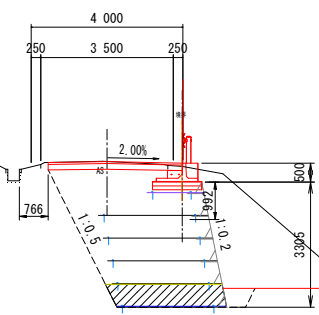
DL=145.000

NO. 0
BH=157.39
FH=



DL=145.000

NO. 2
BH=158.12
FH=



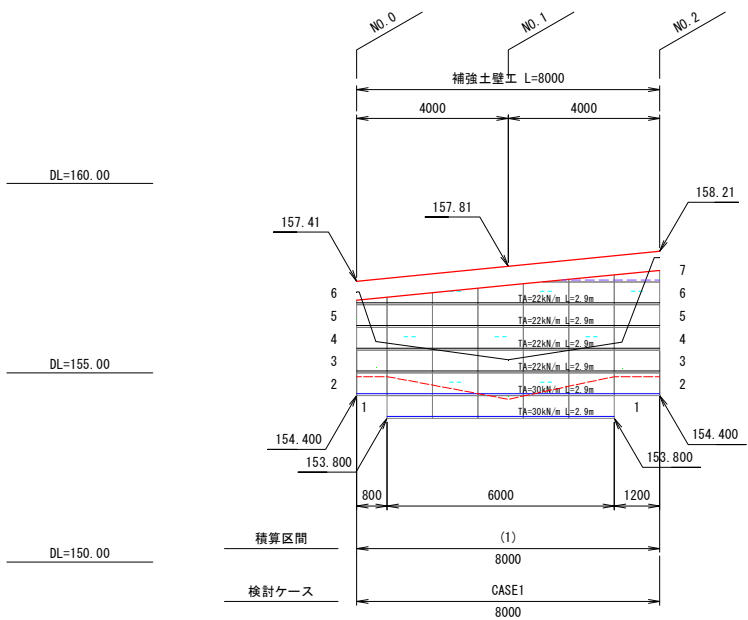
DL=145.000

201/33

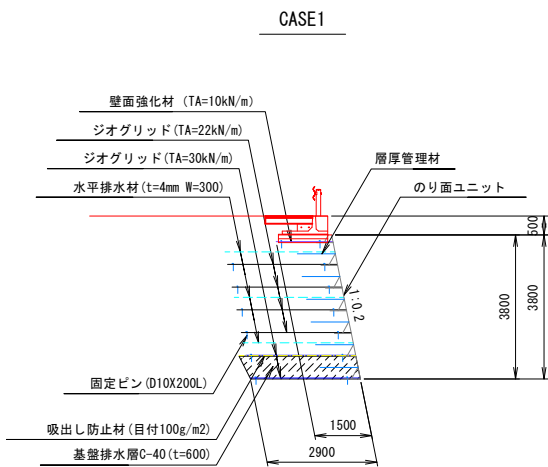
地区名	福永地区		
図 名	横断面図		
位 置	東伯郡琴浦町福永		
縮 尺	S=1:100	単 位	m
図 号	全 5 葉中の内 2		
令和	年度施行		
	琴 浦 町		

補強土壁工構造図

正面展開図 S=1:100

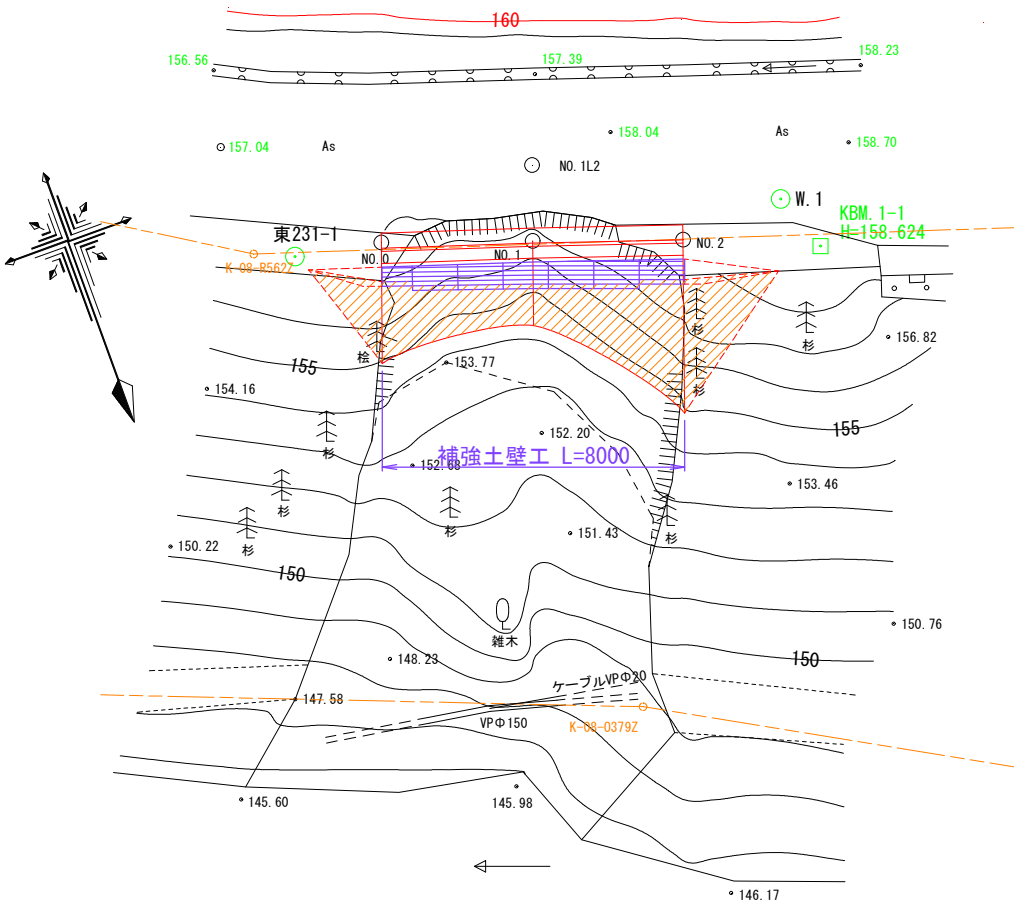


標準断面図 S=1:100



凡例	名称	規格
	ジオグリッド (主補強材)	TA=22kN/m TA=30kN/m
	壁面強化材	TA=10kN/m
	のり面ユニット (2分勾配)	W=1200, H=600
	水平排水材	t=4mm W=300
	吸出し防止材	長繊維不織布 目付:100g/m ²
	補強拘束ネット付植生シート	
	層厚管理材	不織布
	連結金具	ジオグリッド同士
	固定ピン	D10×200L

平面図 S=1:100



特記事項

建設技術審査証明:第0804号

補強盛土工	面状補強材 (ジオテキスタイル) を層状に敷設し、補強材の引張力と土との摩擦抵抗力によってせん断強さを補強し、安定した盛土構造物を構築する	壁面材	・鋼製壁面材は、盛土材を拘束し所定の締固め度が得られる十分な剛性 (断面係数: 0.8cm ³ /m以上) を有すること ・壁面材の座屈や回転等を防止するため、斜体部材、横方向部材および回転防止部材を用いた構造とする
盛土材料	土質条件 $\gamma=19.0\text{kN/m}^3$ $c=0.0\text{kN/m}^2$ $\phi=30.0^\circ$ ・施工前に盛土材の土質試験を実施し、設計定数を確認する ・発注機関の定める規定値に従い、締固め管理を行う ・盛土材料は適切な含水比とする	補強材	・主補強材は (財) 土木研究センターの建設技術審査証明報告書を有する製品とする ・主補強材は、4.5%程度の伸度で所定の引張強さを発現する面状の材料とする ・礫材等による主補強材の耐衝撃性は、90%以上の強度保持率を有する材料とする ・隣接する主補強材の敷設は、突合せを基本とする (ラップする必要はない) ・曲線部や折れ部において、隣接する主補強材間の隙間が10cm程度以上となった場合は、同質・同等の材料にて隙間を埋める
基礎地盤	・良好な地盤又は適切な処置が施された地盤とする ・床掘り完了後に所定の支持力を満足するか確認する	安全管理	・労働安全衛生法および労働安全衛生規則などに遵守する
排水工	・適切な排水処理を施す ・予期せぬ湧水が確認された場合は速やかに排水対策を行う ・施工中は仮排水工を設けるなどして、盛土本体や壁面部へ水を導かないよう排水処理を行う ・補強盛土の底盤は排水対策を施す		

設計条件

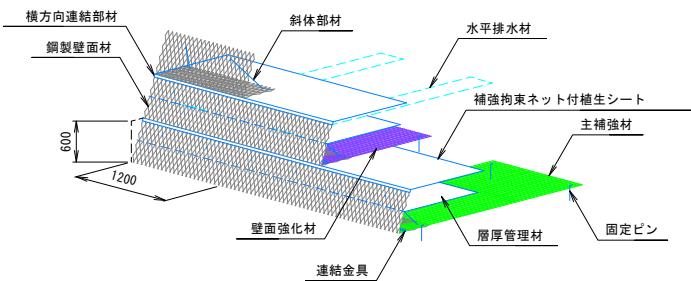
盛土材定数	$\gamma=19.0\text{kN/m}^3$ $\phi^3=30^\circ$ $c=0.0\text{kN/m}^2$
載荷重	活荷重 $q=7.0\text{kN/m}^2$ 死荷重 $q=1\text{kN/m}^2$
円弧すべりに対する安全率	常時 $F_s \geq 1.20$
引き抜きに対する安全率	$F_s \geq 2.00$
転倒に対する安全率	$e \leq L/6$
滑動に対する安全率	$F_s \geq 1.50$
支持に対する安全率	$F_s \geq 3.00$

必要地盤反力度

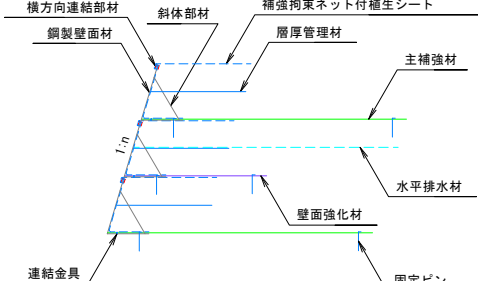
タイプ	検討高	単位	補強領域底面 常時
CASE1	H=3.800m	kN/m ²	93.072

概念図

のり面詳細図



壁面部詳細図

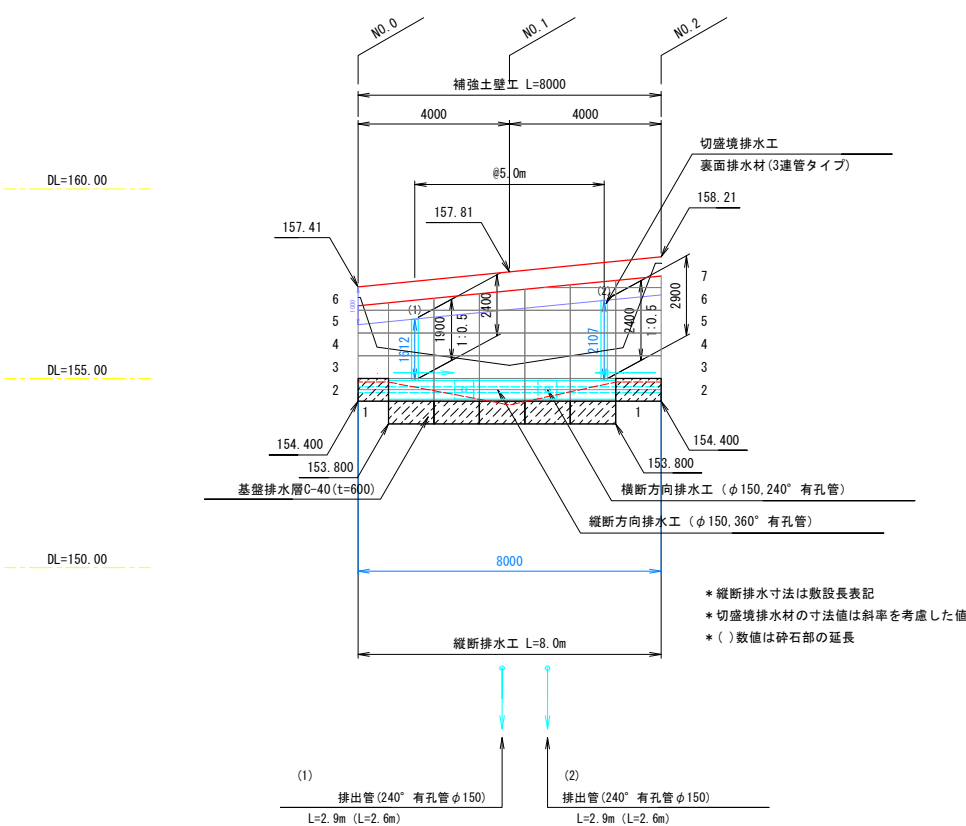


201/33

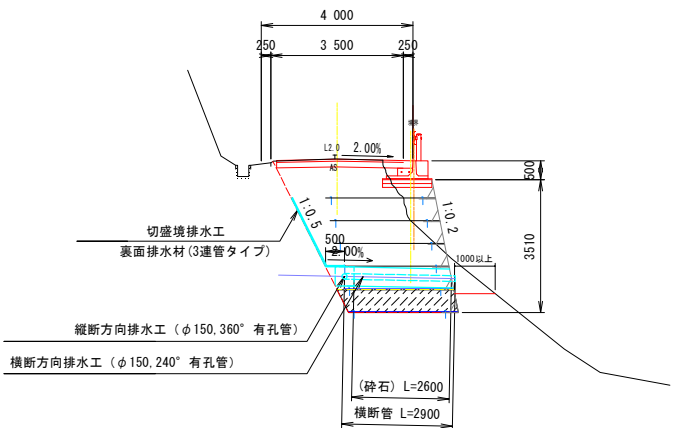
地区名	福永地区
図名	補強土壁工構造図
位置	東伯郡琴浦町福永
縮尺	S=1:100
図号	全 5 葉中の内 3
令和	年度施行
琴浦町	

補強土壁工排水工図

正面展開図 S=1:100



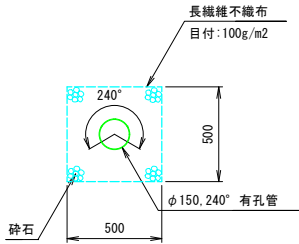
標準断面図 S=1:100



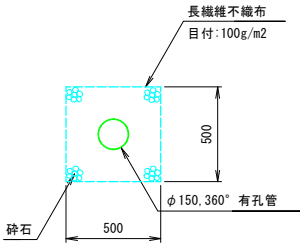
特記事項	
基盤排水工	補強土壁の底面には、地下水および地山からの湧水等による補強領域内への浸入を防止し、速やかに補強領域外に排除するため、基礎地盤の表面に厚さ50cm程度の基盤排水工を設置する。 基盤排水工には、砕石または砂等の透水性が高く、せん断強度の大きい土質材料を用いるものとし、透水係数は $1 \times 10^{-3} \sim 1 \times 10^{-2}$ (cm/s) 程度以上、かつ盛土材料の透水係数の100倍程度以上とする。 基盤排水工に細粒分が浸入することが考えられる場合は、基盤排水工の上面に吸出し防止材（ジオフリースなど）を敷設する。
水平排水層	補強領域内への浸透水を排除するため、盛土の一定厚さごとに、補強領域内に適切な排水勾配で水平排水層を設ける。排水材料としては、砕石や砂または高い排水機能を有する不織布や透水マット（エンドレンフィルター）を用いる。 補強領域の水平排水層は、湧水等を補強領域内に導水しないように切盛境に設置する縦断排水工と連結しない。
切盛境排水工	水が集まりやすい切盛境や掘削のり面には切盛境排水溝を設ける。排水材料としては、砕石または砕石と同等の排水機能を有する透水マット（裏面排水材）を用いる。 この場合の設置間隔の目安は、裏面排水材は5mを目安とするが、湧水の状況に応じて設置間隔や配置を決定する。 調査の時点では予測されなかった湧水があるときは、その程度に応じて別途適切な排水施設を計画する。
横断方向排水工	補強土壁の横断方向には、横断方向排水工を10mの間隔で設け、補強土壁の最深部には2箇所設置する。
縦断方向排水工	水が集まりやすい切盛境や掘削のり面の小段には、湧水量の程度に応じて適切な縦断方向排水工を設ける。

排水工詳細図

横断方向排水工 S=1:20

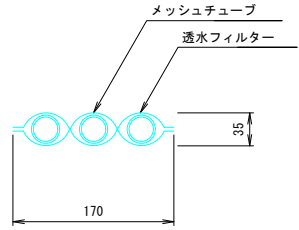


縦断方向排水工 S=1:20



切盛境排水工 S=1:4

(裏面排水材3連管タイプ)



特記事項

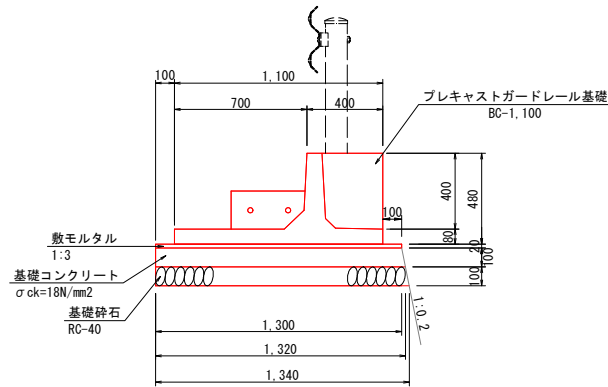
- 1) 縦断管勾配方向を、横断管排出位置を示す
- 2) 補強土壁の最深部には、横断方向排水工を2箇所設置する
- 3) 切盛境には排水材(裏面排水材)を5m間隔で設置する
- 4) 切盛境排水工の設置間隔は5mとするが、地山の湧水状況に応じて決定する
- 5) 補強土壁天端には盛土内への水の浸入を防ぐためのシルコンクリートや排水溝を設ける

201/33

地区名	福永地区		
図 名	補強土壁工排水工図		
位 置	東伯郡琴浦町福永		
縮 尺	S=1:100	単 位	mm
図 号	全 5 葉中の内 4		
令和	年度施行		
琴 浦 町			

プレキャストガードレール基礎
BC-1100

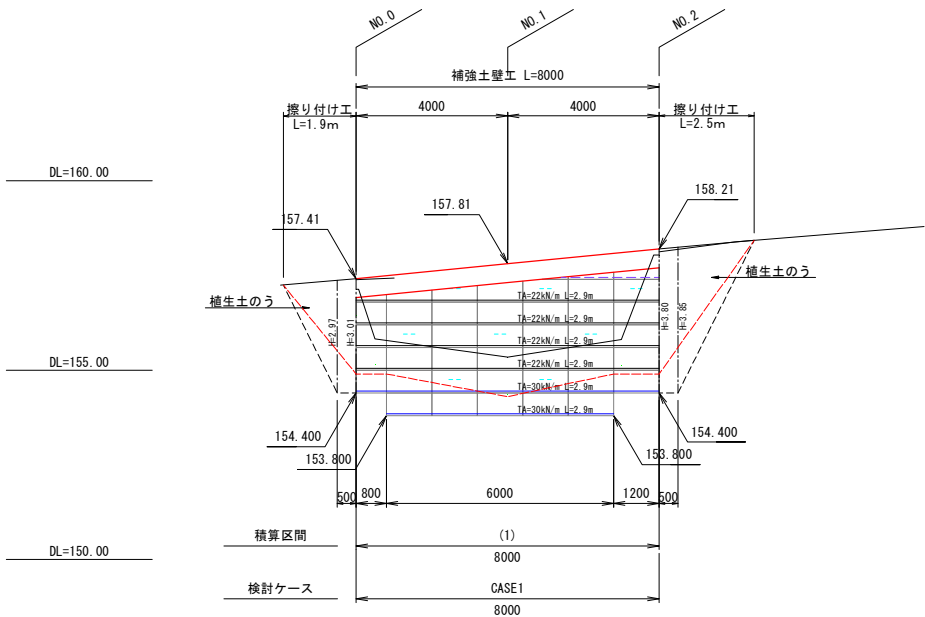
S=1:20



プレキャストガードレール基礎 (BC-1,100)			10m当たり	
名 称	規 格	単 位	数 量	
プレキャスト ガードレール基礎	BC-1,100 L=2.0m	個	5.0	
敷モルタル	1:3	m3	0.260	
基礎コンクリート	$\sigma_{ck}=18\text{N/mm}^2$	m3	1.310	
同上型枠	小型構造物	m2	2.020	
基礎砕石	RC-40 t=10cm	m2	13.300	

擦り付け工展開図

S=1:100



地区名	福永地区		
図 名	構 造 図		
位 置	東伯郡琴浦町福永		
縮 尺	図示	単 位	mm
図 号	全 5 葉中の内 5		
令和	年度施行		
琴 浦 町			